

音楽 交換留学生 志望動機書 英文ライティングに関する注意事項

英文ライティング・スタイル

・日付：西暦表記・右寄せです。

・タイトル：The Statement of Purpose

(* 志望動機のエッセイタイトルは、The Statement Purpose もしくは、Letter of Motivation です。)

本文：本文は短すぎても、長すぎても印象がよくありません。3～4パラグラフくらい、A4用紙一枚以内（長くても一枚半に収まる）程度が読み手にとってちょうど良い分量です。

本文の最後に氏名・所属（大学名／専攻）を記載してください。

パラグラフの内容：

英文の志望動機はだいたい3～4パラグラフ構成で内容を書くことが多いです。あくまで一例ですが、以下のように各パラグラフで明確に志望動機を書くと読み手に伝わりやすくなります。

① 導入部：自分のことを紹介する（自分をアピールする部分）

これまで、どのように音楽を学んできたか、演奏家としてどのようなことが大切と考えるか、また過去の経験などについて（コンクール、リサイタル経験があればそれも交えて）音楽経歴を具体的に書いてみてください。

② 志望動機部分：なぜ、その留学先で勉強したいのか、具体的に理由を書く（その大学への留学の必然性を書く）。留学先の国や都市、音楽大学で勉強する特定の理由を説明すること。留学の志望動機にはよく、異文化を学びたい、クラシックの本場で学びたいという内容が見られますが、一般的な異文化体験の説明では、注目を惹きつけるような志望動機にはなりません。なるべく具体的な説明が必要です。なぜ、本場で学ぶ必要があるのか？

現地の言葉でリズムやハーモニーを理解することが重要だから？日本では学べない内容があるから？

特定の作曲家／音楽家について、歴史的な、文化的な側面からもっと深く学びたい。大学の特定の先生の指導を受けたい。日本にはないプログラムがあるから。特定の技法や理論などが学べるからなど。専門的に具体的に書く必要があります。そのためには、希望先の大学や地域について情報収集をしておく必要があります。（志望動機部分は、一番重要な所なので、書きたい内容が多い場合は、2パラグラフくらいに分けて書いても良い。）

- ③ 結論部：留学をどうしても実現させたいという気持ちを最後に伝える。例えば、留学を実現するために、これまでどのような努力をしてきたのか。また留学中に学びたいこと、留学での経験を将来にどのように生かせるかなどについて書く。

その他注意事項:

日本人は謙遜をする文化があるので、文章にもそういった側面がでてしまいます。基本的に、謙遜や、ネガティブなことを志望動機には書かないようにしましょう。例えば、「語学にあまり自信が無い」と書くのではなく「語学は十分ではないけれども、現在一生懸命勉強している」というようにポジティブに書くほうが、印象が良く受け取られます。

また、日本語原文をインターネットの翻訳機を使って訳して、そのまま提出する方がいらっしゃいますが、翻訳機の英語訳は誤りが多数あり、すぐに翻訳機を使ったことが読み手に分かりますので、ご自分の力で英文を作成されることを勧めます。